



ぴっぴだより

No10. 2024. 12. 24

一年を振り返ってみると、私の気になる出来事のひとつにぴっぴファミリーで行く「陶芸の旅」があります。コロナウィルスのパンデミックから再開して2年目、募集をしてみるとたくさん希望する方がいることがわかりました…いよいよぴっぴ在園のみなさまにもお誘いできる時が来たと喜びがあったにも関わらず、15名の方に限られてしまうということになりました。今もまだ、どうやったらたらみんなが気持ちよく行けたのだろうかと考えます…あり方とやり方は、何かがずれていなかったらどうか、来年はどうしようかと…

私たち家族は、ぴっぴで陶芸の旅が始まった15年前の初回から欠かさず毎年「だいだらぼっち陶芸の旅」に参加してきました。最初の年は、長女5歳（年長）、次女どんぐり、三女お腹の中でした。大竹恭子さんと車を乗り合わせてお互いに母子で参加し、たくさん助けていただきました。年に一度の機会ですが毎年のその思い出と感じたことは色濃く刻まれています。例えば、2歳のときお茶碗創りに夢中になっている娘の眼差し…、大広間での雑魚寝…、旅の出発当日朝に反抗期小6娘を独りで1泊のお留守番をさせる決断をしたあの日…、食べすぎ飲みすぎ二日酔い泣き笑い…、自分の育てた藁の灰から釉薬を作り器の色になって味わった感動…、割れた器が金継ぎされて帰ってきた時の愛おしい感じ…、手作りのごはんが手作りの器に盛られ家族で食卓を囲む幸福感…、冴えない顔が多かった娘に明るい笑顔が戻った癒される場所…、大きくなって娘たちが優先して行きたい場所…まだまだ、自分の思い出だけでも溢れてくるのに仲間の分も合わせるととても書ききれません。

また、陶芸をお教えてくださるのは“ぎっく”と“まるちゃん”ご夫妻で、「暮らしの学校だいだらぼっち」の暮らしに溶け込んで、そこでのものづくりを支えていらっしゃいます。私たちが滞在中の暮らしも案内してくださるのですが、実家に帰ったようなホッとできる温かさもあり、癒しもあり、学びもあり、刺激もあり、魅力たっぷりなのです。陶芸を通して子ども達に寄り添ってくださる言葉や気持ちの心地よさ、創りたいものを心ゆくまでつくることを応援してくれます。私は娘たちの器は創ったもの、自分の器は作ったものを感じて「かなわないな～」と毎度思うのです。ぴっぴを飛び出した特別な場所での仲間との暮らしや交流はより深くなり、夜になると更に、「だいだらぼっち」のスタッフがぎっくぼらんに場に交ざってくれます。話題はその子どものこと、暮らしのこと、地域のこと、どれもこれも新鮮さあり、身近な話でもあり、深い視点で自分を確認できたり、気づきがあったり、最近では大きくなった娘の世代の子ども達はその場に交っていて、ごちゃまぜな交流がなんて豊かな繋がりだろうと思います。

2024年もあとわずか、改めて振り返ってみると何気なくやり過ごしていたことにも気づきを感じたりします。来春から一人暮らしをする次女、いまだに時折私に（娘3人揃って…）おんぶをせがみます。鈍感な私は次女の繊細さをまゆさんに教えていただいてもずーっと理解しきれずにいましたが、今やっとこの子の繊細さを理解し心から受け止めることができる気がしています。気づけたことに感謝して、また新しい年をごきげんに暮らしていけたらと思います。2024年もありがとうございました。皆さま よいお年をお迎えください。 : 恵理

森林であそぼう! つくろう! みつけよう! 1月

森の木々は、すっかり葉がおり、見上げると冬の青空が美しくみえる季節となりました。

モミヤイテイトなどの針葉樹とよばれる木々以外はこの季節、春がくるまで長い眠りにつきます。遠目からみると、全ての木は同じようにみえますが、近づいてゆくり観察してみると木々によって花芽



花びら6枚
大きさは
4~5cm

アブラチャン



枝の先にふくらんだ芽は「冬芽」とよばれます。

冬芽の外側は芽鱗という楕円からのもので覆われ

(コブシはフワフワ) 中の花(花芽)や葉(葉芽)を寒さや外敵から

守る役割りとしています。樹種ごとに冬芽の様子は異なり、この小さな冬芽の中に命が息づいていると思うと、あたりにかなえ持ちになります。

ムササビ

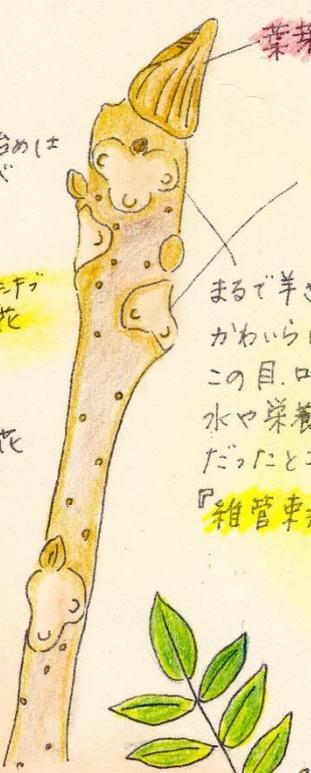


冬の始めは少し実が残る

ムササビの花

いくつもの小さな花が集まっています。この1つ1つが紫の実になります。

オニグルミ



ここにはおしぼが
ついていました
ココ

まるで羊さんの顔のようにかわいらしい姿のオニグルミの冬芽。この目、口にみえるところは水や栄養分の通り道だったところ『維管束痕』といいます。



こんなに大きな葉に!



ホオノキ

日本の樹木の中で一番大きい花と葉をつけます。

葉はさわやかな香りと殺菌力があるので「朴葉煎」や「朴葉みそ」などが有効ですね。子どもにも大好き。

寒さが厳しい季節ですが、冬の森の中で、たくましく息づいている木々たちをみているとその工夫や姿にたくまげんの元気をもらえます。そして、また花や緑になる姿を楽しみにして...

ただよび

あ、というまに 2024年も年の瀬ですね。

どこのかの哲学者の方？が言っていましたか、人は19歳くらいで、人生の半分を体感している感覚だとか。年々、1ヶ月、いや1週間... 日が過ぎるスピードがはやくなっている気がして糸内得してしまいました。

今年の田畑作業もあ、というま...

このスピード感を自覚して、作業にも反映させようと振り返っています。反省はたくさんあって、来年はこんなふうにはできるかな、してみたいな、とみなさんにまた声をかけさせていただきたいと思います。よろしくおねがいいたします。

何はともあれ、ひっひを振り返ると、たまらなくかわいい子どもたちの笑顔が思い出され、それを取りまく大人たちの笑顔も思い出され、幸せな気持ちになります。今年もありがとうございました。よいお年をお迎えください。(は)